

平成 29 年 11 月 29 日

九州大学大学院経済学研究院
産業マネジメント専攻長
村藤 功 殿

報告者
ICABE 学生交流推進プロジェクト
学生代表 綾部 博之、内山 貴博

出張報告書

ICABE 学生交流推進プロジェクトによる出張を下記の通り行いましたので、ご報告申し上げます。

記

1. プログラム名称

ICABE 学生交流推進プロジェクト (第 28 回)

2. 出張地・訪問先

フィリピン・マニラ

・ 大学 (アテネオ・デ・マニラ大学) ・ 企業 (イビデン、ファステック)

3. 出張の背景および目的

International Consortium of Asian Business Education (ICABE) に基づき、アジア各地の ビジネススクールを訪問して学生間交流を行う。

日系企業や現地財界人への訪問や面談を通じて、現地の最新事情の把握、経済・文化に対する理解を深める。

4. 日程 平成 29 年 9 月 22 日 (金) から 9 月 25 日 (月) (3 泊 4 日)

5. 参加者 17 名 (教員 2 名、学生 15 名)

(1) 教員 : 目代 武史 准教授、三上 聡美 助教

(2) 在学生 : 綾部博之、内山 貴博、喜多 あずさ、進藤 寛修、原 敬、本間 寛隆、
宮崎 珠美、吉田 健 (以上 14 期)、Kandel Narayan、陳 慧芸、藤吉 由貴、
松尾 明子、深山 治、森 康宏、葉 穎儒 (以上 15 期)

6. スケジュール詳細

【9月22日】

午後 福岡発（フィリピン航空 425 便 15：30）

夕方 マニラ着（18：15）。チェックイン後、夕食。

【9月23日】

09:30-13:30 イビデンフィリピン訪問、イビデン近郊のホテルでランチ

15:30-16:30 ファステック訪問

18:00-18:30 アテネオ・デ・マニラサテライト校訪問

19:30-21:00 夕食会（アテネオ・デ・マニラ学生も同席）

【9月24日】

-12:00 各自ホテル周辺を散策

12:30-17:30 アテネオ・デ・マニラ訪問

18:00-20:00 夕食会（アテネオ・デ・マニラ学生も同席）

【9月25日】

午前 マニラ発（フィリピン航空 426 便 9：45）

午後 福岡着（14：30）

7. 学生リーダー所感

近年、アテネオ・デ・マニラ大学（AGSB）大学からの留学生受入れの実績がないことから、今回、交流を深める目的で同校を ICABE 訪問先とした。

一方、訪問先を決定するタイミングに、イスラム国に忠誠を誓う武装組織と軍との戦闘がフィリピン南部で勃発し、同エリアに戒厳令が発令する事態が起こったため、情勢を確認しながら準備を進めた。幸いにも今回の引率教員である目代准教授が 8 月に別件でマニラに出張をし、マニラ市内の状況や安全性などを実際の目で確認することができたことから、予定通り実施することとした。

空港到着時から AGSB の学生代表 2 名のお迎えがあるなど、滞在中の大変手厚いサポートがあったおかげでスムーズに行程をこなすことができた。

安全優先で企業訪問は実施しない方向で計画を進めていたが、AGSB から日系企業と現地企業への訪問提案と訪問当日は AGSB の学生に同行してもらうなどのサポートを受け、イビデンとファステックの 2 社を訪問した。両社でも手厚いおもてなしを受け、工場見学をはじめ Q & A の時間も充分にとることで、フィリピンのビジネス環境を把握することができた。

翌日の AGSB とのグループワークやその後の懇親会も充実したものとなった。車社会でもあることから交通渋滞が激しく、移動がタイトになった局面もあったが、特に大きなトラブルもなく安全面にも十分に配慮し、有意義な ICABE となった。



アテネオ・デ・マニラ大学から眺めたマニラ市内



宿泊先近くのトランプタワー

8.活動報告（企業訪問）

○IBIDEN Philippines, Inc. 9月23日 9:30～11:30

- ・設立 2000年(平成12年)5月
- ・所在地 フィリピン・バタンガス州
- ・事業内容 ICパッケージ基板の製造

イビデン株式会社の海外グループ会社であるイビデンフィリピン株式会社様を前半会社概要の説明、後半工場見学という内容で半日訪問させていただいた。前半の会社概要では、IPIの概要、戦略、課題などをご説明いただき、後半の工場見学では、実際にICの製造工程や製造に纏わる工夫などを見せていただいた。日系企業ということで、若干の親近感があったが、海外拠点ゆえのマネジメントの違いなど、新鮮な内容が多く、非常に有意義な訪問であった。

特に組織マネジメントや人事制度についてQBS学生から質問があったこともあり、表彰制度や定期的に行われている家族などを招いて従業員の功績をアピールする機会、「自慢大会」などの説明には多くの学生が興味深く聞いていた。



（“自慢大会 “についての説明）



○FASTECH SYNERGY PHILIPPINES INC. 9月23日 15:30~16:30

- ・開業 1983年
- ・所在地 Cabuyao Laguna
- ・従業員数 約400名

・元々は民生品の家電（ラジオ、電話、無線機など）を製造していたが、上流の半導体へシフトした。現在作られているのは車載用センサー（ボルボに納品している。太陽がどこにあるかを検知して車内や室内温度を検知するセンサー）や宇宙のレーダーシステム等のハイエンド向け製品も取り扱っている。

- ・現在は請負生産。
- ・材料は顧客から送られてくる。

多品種少量生産の人手に頼る作業に特化することで大手と住み分けをしている。

・以前は2,200名ほどの従業員がいたが、リストラして現在は400名ほど。3つのビルで成り立つ工場だが、空いたところは貸していて日系企業含め20社ほど入居している（むしろ不動産業での収入も大きい）。それらの企業とも連携し、敷地内サプライチェーンの構築、材料の現地化を進めている。

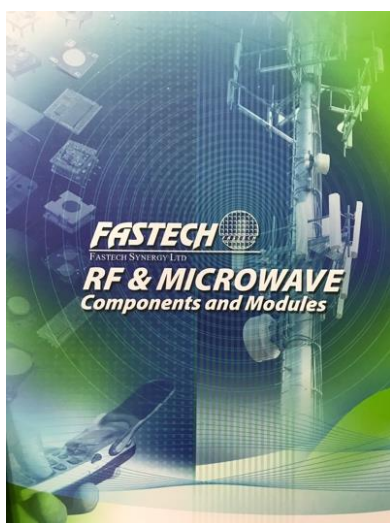
- ・以前はシンガポール証券取引所に上場していたが、現在は非上場化している。

<工場内視察>

女性従業員が多い。なぜ女性が多いか質問したところ、女性は勤勉で作業が丁寧だからとのこと。メッキ加工等化学薬品を用いる工程でも女性が働きやすいようにロボット等で補っていると説明を受けた。精密機器であるにも関わらず、人が目検しているのは人の目による顕微鏡検査を重要視しているからとのこと。

○MATERIAL Store

半導体原料（シリコン、ケイ素等）



- DIE 半導体チップ製造、顕微鏡を使用した目視検査
- FA/REL Laboratory 不良品、信頼性検査（X線など）
- 配線プラスチックコーティング
- PLATING Aria メッキ漬け込み工程
- SEPARATE Aria 切り離し作業
- 検査・出荷 Aria 品質チェック（ダストが舞わないクリーンな環境）



Fastech 入口



工場見学の様子

■所感

交通渋滞を考慮し、早朝 6 時半に出発。ホテルへの戻りが 21 時過ぎとなり終日かけての行程となったが、ランチやディナーも同行のアテネオ・デ・マニラ大学学生やレーン教授と伴にすることができ、終日交流を深めながら多くの学びを得た。

9.活動報告（大学訪問）

○アテネオ・デ・マニラ大学

日時：平成 29 年 9 月 24 日 12：00～17：30

それぞれより挨拶や学校紹介などを行い、第 1 部はアテネオ・デ・マニラ大学側からプレゼンテーションが行われた。その後、4 チームに分かれグループワークを実施し、それぞれのチームがビジネスプランを披露した。





<プレゼンテーション>

Business Transformation in Information Technology and Telecommunication Industries. (Aqus Sutiono Pamuji)

テレコム産業の状況をグローバルな視点で紹介。4G モバイルが主たる成長エンジンとなり同産業を牽引していることや、今後の 5G の動向についても見解が示された。

<グループワーク>

QBS 学生と AGSB 学生とが交わるグループ編成を行い、フィリピンと日本はどちらも地震や台風など災害に遭遇することが多いという共通点から、「自然災害と IT」をテーマに新たなビジネスモデルの提案を行うべくグループワークを実施。

各グループの提案は下記の通りであった。

◆グループ A 進藤、吉田、松尾、Irene Quinio、Adrian Joseph Luansing

病院が保有する患者に関する情報を中心に、クラウドで管理することで自然災害が起きても情報が失われないことを提起。具体的な災害を想定しながらクラウド管理について言及した。また、災害時以外にもクラウドを介して病院間で情報を共有することで医療サービスの質があがり患者の満足度も高まる点にも触れた。

◆グループ B 綾部、内山、Narayan、藤吉、Jessa Camille Dasas、EJ Baylon

知名度や立地などからスターバックスが災害時の役割を担いながら、自社のビジネス拡大につなげることができないか検討。ITサーバの設置や顧客に事前に個人情報の登録を促すことで非常時の安否確認や被災した人に様々な情報提供やサポートを行う仕組みを提案。

◆グループ C 深山、喜多、宮崎、森、Jayvann Carlo Olaguer、Nikki Pangilinan

博多駅前の道路が陥没したケースを紹介しながら、災害時のイノベーションを短期的な視点と長期的な視点に分けて発表。短期的には製薬会社がドローンを活用し、迅速に被災地に向けて必要な薬や生活用品を届けるモデルを紹介。長期的には災害時のビジネスデータサーバの復旧についてフィリピンや福岡の立地を生かしたビジネスモデルを提案。

◆グループ D 原、本間、葉、陳、Francis Nico Serrano、Aqus Sutiono Pamuji

テーマ「福岡銀行」を設定し、災害の前、中、後、3つプロセスと措置について議論した。データロスを防ぐために、福岡・大阪・東京に on-line データセンターを設立し、顔・声・指紋などの自動認識システム導入を提案。災害中に太陽エネルギー発電を利用し、ATM の使用が可能となる。災害後、福岡銀行のウェブサイトを最短で復旧させ、他接続点（ケータイやコールセンターなど）の正常運営を確保するメリットを説明した。

■所感

当日はとても暑く、ホテルから大学までの 15 分程度の徒歩であったが、大粒の汗が噴き出していた。AGSB へ早めに到着し、大学キャンパス内を案内してもらいながら、フィリピンの政治情勢などの話を聞くことができた。加えて、ビジネススクールと併設されていたロースクールの雰囲気も味わうことができた。グループワーク中は QBS からは日本のお菓子を差し入れし、また AGBS からも軽食の差し入れがあるなど、終始和やかな雰囲気で行った。フィリピンが英語圏であるため、AGSB の学生は流ちょうな英語で積極的に議論をしていたことが印象深い。各チームそれぞれがビジネスプランを発表し、目代准教授からコメントをもらう。その後、QBS から AGBS 学生全員に記念品の贈呈や、それぞれの学生代表同士、お礼の品などを交換し、セッションを終えた。その後、AGSB の教員や学生と一緒に現地料理をメインとした食事をして、さらに親交を深める機会をもつことができた。過去 3 回の ICABE に参加した中でも、ASGB の学生達は最もホスピタリティに溢れていたと感じた。